

病因論概説

1-1 敵を知るための病因論，敵は自分の中にも

私たちの体はどうして病気になるのでしょうか？ 私たちはもともと病気にならないための力を備えています。それではどういった原因で病気になるのでしょうか？

これまで，主として私たちにはどういった力があるのかについて勉強してきました。これからは，病気の原因にはどういったものがあるのかについて勉強していきましょう。敵方のことを知っておくと，病気の原因を排除することや，病気を予防することも可能になります。

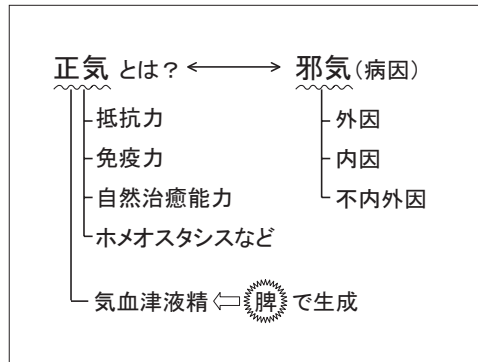
1-2 自分の力

私たちには [] という強い味方がありましたね。病気にならないようにする，あるいは病気になりかけたときに自分の力で病気にならないようにする力，抵抗力・免疫力などや，病気になってしまったときには自分で回復しようとする力，自然治癒能力などがありました。体のバランスが崩れたとき，この崩れたバランスを自分で調整しようとする，恒常性を保とうとする力，ホメオスタシスもあります。

このように，私たちのもっている力はいろいろな言い方がされていますが，これらはすべて [] の力なのです。

1-3 病気の原因：外因・内因・不内外因

これに対して，病気の原因となるのは ^{よこしま} 邪な気と書いて，「^{じゃき}邪気」と呼ばれるものです。これから，どういった邪気があるのかについて勉強していきますが，邪気は外因・内因，そして外因でも内因でもない不内外因の大きく3つに分類されています。



こぼれ話 1-1

〔 復習 :
正気の力の正体 〕



こぼれ話 1-2

〔 治療のポイント 〕



こぼれ話 1-3

〔 正気の幅と健康度 〕



こぼれ話 1-4

〔 人間ドックにおける
東洋医学健診の役割 〕

1-4 外因

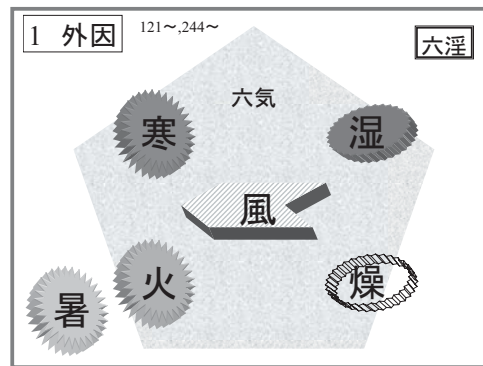
1-4-1 正常な季節の移り変わりと六気

まず外因から見ていきましょう。外因というのは、外からの原因ということですが、どういうものなのでしょうか？

春らしい春，夏らしい夏，秋らしい爽やかな秋，そして普通の冬というように，本来は春夏秋冬という季節的な変化があります。私たちの体は〔 〕によってその気候の変動に適応できるようにできているのです。

自然現象を考えてみてください。適度に爽やかな風が吹くとすがすがしいですね。冬になると寒くなりますが，冬らしい寒さはよいものです。梅雨があけると暑い夏がきます。梅雨時は湿度がある程度高くなりますが，これは梅雨らしい状態です。適度な湿り気，適度な乾燥は体にとって必要です。暑は熱の性質を帯びていますが，熱性が非常に強いものを「火」という言葉で表現します。これらが自然界の風・寒・暑・湿・燥・火です。

この自然界の正常な気の移り変わりを「〔 〕」と呼んでいます。これは適度な移り変わりですから，自然現象です。病気の原因にはなりにくいものです。



1-4-2 六気の異常：太過と不足

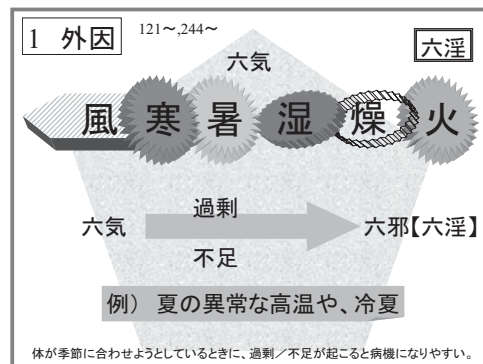
ところが、自然界の六気が正常でなくなる場合があります。1つは強く作用し過ぎる「[

]」(過剰)というパターン、もう1つは弱くなる「[

]」というパターンです。冬は寒くなければいけないわけですが、暖かい「暖冬」になることがあります。これは寒さが足りない「不足」の例です。また夏は暑くなければいけないわけですが、「冷夏」のような場合もあります。これも暑さが足りない「不足」の例です。一方、「過剰」の例としては、梅雨が2カ月以上続いたとすると、風・寒・暑・湿・燥・火のうちどれが過剰になりますか？ 湿ですね。いつまでもジメジメしていると気も滅入りますし、食欲もなくなってきましたね。色体表の「五悪」のところを見ると、湿は[]に悪く作用することがわかります。消化器系に影響しやすいのです。

本来、正常なものを「六気」といいますが、その「過剰」あるいは「不足」によって私たちの体が適応できなくなってしまう可能性が出てくるわけです。適応できないと病気になってしまいます。

このように「[]」に異常が生じ、人体に対して悪い影響を与える邪気となったものが「[]」または「六邪」とされているものです。





こぼれ話 1-5

〔気象異常〕



こぼれ話 1-6

〔エルニーニョ現象と
ラニーニャ現象〕

1-4-3 外因は六気の過剰・不足によって発生する

自然界の六気には、風・寒・暑・湿・燥・火がありました。これらはリズムをつけて覚えましょう。イメージとしては、「風」「暑い」「寒い」「乾き」「湿度が高い」などです。

六気が過剰あるいは不足すると、私たちの体にとって悪い存在になり、六淫あるいは六邪となって、病気の原因（発病原因）になります。これらの6つの病気の原因は外からの影響のため、「[]」というのです。

過剰の例としては、夏が暑くなりすぎると「猛暑」ですので [], 冬の場合には「厳寒」となり [] ということになります。寒気団が関東平野に1カ月も居座ったとすると、慣れない私たちの体はどうなりますか？ 気には温煦作用があり体を温めていますが、寒気団のような強い寒邪に対して温煦し続けたとしたら、[] はかなり消耗し、[]

[] が消耗し尽くすと凍死してしまいます。海難事故や登山で遭難したときもそうですが、もし冷え（寒邪）によって体温が奪われ、気をどんどん消耗していくと、生命が危うくなります。

1-5 内因

1-5-1 内因は七情に起因する

次は内因について見てみましょう。

東洋医学の分類では、内因は七情、つまり7つの情緒の変化に起因するものとされています。いろいろな精神的な刺激を受けると、さまざまな気持ちの変化が起こります。これらは一定範囲では正常な精神活動です。足を踏まれてムッとする 것도 正常な気持ちの変化であり、元来は外界事物に対する情緒反応なので、通常は発病因子にはなりません。

